

# 「子育て」は財布のヒモをゆるめるキッカケになるのか？

子どもが生まれた途端、家庭の出費は突然増えるもの。「子どものためには、金額など気にしない！」  
「でも、お給料には限りがあるから支出は慎重に」。お金の使い道を吟味する子育て世代は、果たしてクルマにお金を使うのでしょうか？今回は子育てを切り口に消費動向を探ります。

## POINT 1

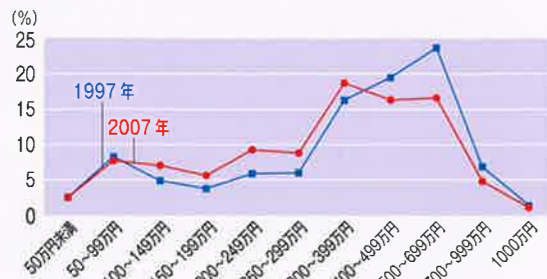
### 晩婚化進む。子育て世代の収入は減少傾向に

昨年6月に発表された2012年の合計特殊出生率(1人の女性が生涯に生むとされる子どもの数)は、前年を0.02ポイント上回る1.41だった。上昇は2年ぶり、1.4台への回復は1996年以来16年ぶりとなる。ちなみに第1次ベビーブーム期における率は4.3超、第2次ベビーブーム期は2.1台で、過去最低は2005年の1.26。

久しぶりに合計特殊出生率を上昇させた理由に、第2次ベビーブーム期世代(1971~1974年生まれ)、いわゆる「団塊ジュニア」の出産への高い意欲が背景にあるといわれている。内閣府が発行している平成25年版少子化社会対策白書によれば、日本人の平均初婚年齢は2011年で夫が30.7歳、妻が29.0歳。1980年には夫が25.2歳、妻が25.2歳だったのだから、およそ30年で平均初婚年齢が3~4年近く上昇したことになる。

この30代の収入についてまとめたのが下のグラフだ。30代では、1997年には年収が500~699万円の雇用者の割合が最も多かったが、2007年には300万円台の雇用者が最も多くなっており、子育て世代の所得分布は、この10年間で低所得層にシフトしていることがわかる。

子育て世代の所得分布(30代)



出典:総務省統計局「就業構造基本調査(2007)」  
※平成25年版「少子化社会対策白書」より抜粋

## POINT 2

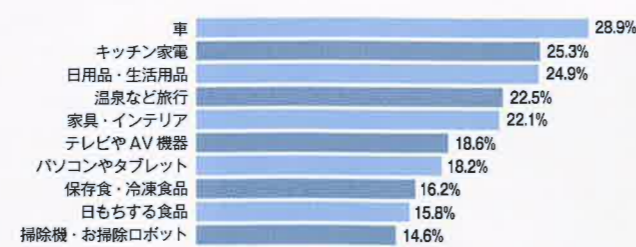
### 限られた資金を投入する先は「クルマ」

晩婚化、合計特殊出生率の上昇、そして子育て世代の低所得層へのシフト。これから始まる消費税8%を前に、支出先の選別を始めているはずだ。子育てサイト「ハッピー・ノート ドットコム」のアンケート調査で、消費増税前に購入したいものをたずねたところ、1位はなんとクルマだった。5つまでの複数回答ではあるものの、2位のキッチン家電に3ポイント以上差をつけている。

アンケートは「購入した」「購入したい」の両方を含めており、小さな子どもがいる家庭でクルマのニーズが高いといえるだろう。ただし、前述のように子育て世代は低所得層へシフトしているため、支出はできるだけ抑えたいのが本音。これが近年の軽自動車シェア拡大の一因となっていると見られる。

室内が広くて使い勝手がよく、登録車に比べて税金、燃料費、保険料、どれをとっても登録車より安いなら、軽自動車を積極的に選ぶことになる。また、出産前まではペーパードライバーだったが、子育てをきっかけにクルマの運転を復活する女性も多い。車体が小さく、取り回しがしやすいことも、大きな理由と考えられる。

消費税増税前にママが購入した(したい)もの(上位10件、複数回答可)



11位以下は「エアコンや空気清浄機」「洋服などファッション」「バッグやアクセサリ」「嗜好品(お酒など)」「一眼レフカメラやデジタルムービー」「マイホーム」「レストランなど外食」「電動自転車」「リフォーム」「ピアノなど楽器」「美顔器などの美容グッズ」となっている

出典:ミキハウス子育て総研「Weekly コーゴリサーチ」第627回分析結果/実施期間:2013.10.31~2013.11.06/有効回答数:317 ※子育て応援サイト「ハッピー・ノート ドットコム」読者向けアンケート



## Opinion

### 「安全」であること 維持費の安さと クルマ選びのポイント

赤ちゃんがハイハイを始めると、それまで気付かなかった廊下の段差や家具の角が気になりはじめ、水や食べ物にも注意を払うようになります。1人では何もできない赤ちゃんを、健康に安全に育てたいと思うからです。

私たちが発行している子育てファミリー向け情報誌は、地域の小児科などで無料配布しており、子育てに関わるさまざまな情報を掲載しています。一番反響があるコーナーは、子どもの健康情報をまとめている「教えて!ドクター」ですが、クルマに関する記事についても一定の支持があります。出産を機会に運転を再開するママに向けた、ペーパードライバーを脱出するための解説記事などは人気が高いですね。

子育て世代はクルマに対して関心が非常に高い。特に「安全」というキーワードには敏感です。チャイルドシートは当然として、後進時に誤って子どもを巻き込まないためにバックモニターが必要でしょうし、子どもが指や身体をドアや窓に挟まない工夫や、ママの運転が楽になる、といった話題をセールストークに織り交ぜると、商品にもっと興味を持ってもらえると思います。

◎藤田洋さん  
ミキハウス子育て総研株式会社  
代表取締役 社長

ミキハウス子育て総研は、0~6歳の子を持つママ・パパ向けサイトとして日本最大級の「ハッピー・ノート ドットコム」運営、子育てファミリー向け情報誌「Happy-Note」発行(発行部数17万部、年4回発行)、幼児向け英会話教室や子育てをテーマにしたマーケティングリサーチ、「子育てにやさしい住まいと環境」認定事業など、幅広い事業を手がけている。  
<http://www.happy-note.com/>

## POINT 3

### 孫が生まれ、祖父母のクルマ選びも変わる

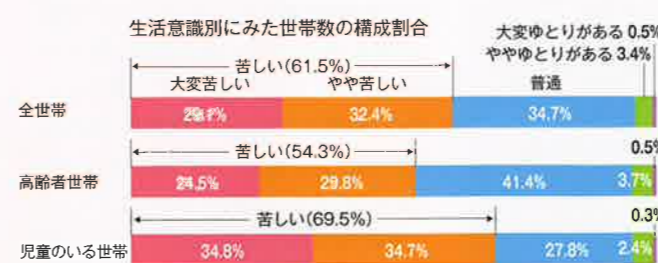
限られた収入のなかから、子育て生活を充実させられるクルマ選びは慎重を極める。だが、お金を使うのは子育てに奮闘する親だけではない。孫が生まれた祖父母世代の存在は決してあなどれない。

下図を見ると、高齢者世帯は子育て世代に比べて「暮らしが苦しい」と感じている割合が少ない。子どもが独立し、基本的には夫婦二人暮らし。生活コストが下がり、経済的な余裕が生まれやすい。余裕が生まれた分、支出先としてクローズアップできるのが「孫」の存在だ。

子ども家族が帰省しても、5人乗りのセダンでは全員で出かけられない。「祖父母夫婦+親夫婦+チャイルドシートが必要な孫」という構成を満足させられるのは、ミニバンしかない。3列目のシートまで使うことは年に数回だろうし、ダウンサイジングがトレンドな昨今にミニバンは持て余し気味にも見える。しかし、たまにしか会えない孫との時間を楽しむためであれば、多少支出はいとわれないのが祖父母だ。

「小さな子ども」と「孫」が生まれた家族。勤める車種について今一度考えてみる必要がある。

生活意識別にみた世帯数の構成割合



出典:厚生労働省「平成23年国民生活基礎調査の概況」